

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-207	高等学校	外国語	論理・表現 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論 I 015-901	CROWN Logic and Expression I New Edition		

1. 編修の基本方針

本書は、英語学習の特質を踏まえて、特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の3領域を中心とした基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、聞いたり、読んだりして得た情報や考えなどを、論理的に発信できるような思考力・判断力・表現力を身につけられることを目標に編修した。そして、次の3点を教育理念として掲げる。

1. 「ことばの教育」に資する

コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加えて、ことばを通して思考力・判断力・表現力を高め、豊かな言語観を育成する。

2. 「国際理解教育」に資する

ますます複雑化する国際社会の中で、比較文化の視点に立ち、世界のさまざまな言語や民族に対して目を向けさせ、人類としての共通性だけではなく地域や民族の個性も同時に尊重し合う、豊かな文化観と真の国際理解のための資質・能力を養う。

3. 「人間教育」に資する

今日のグローバル社会に生きる生徒たちに、特に話したり書いたりすることを通して、人間としての生き方やものの見方、考え方、ならびに世界観に目を向けさせ、多様化する社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。

英語教育は、学校教育の一環としての人間形成の教育であり、ことばの教育を教科独自の課題とし、国際理解教育に対してはとりわけ大きな役割を担っている。この認識に基づき、上記3点の教育理念を具現化するため、特に次の5点を編集の基本方針とする。

- 特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の活動を通して、ことばと人間との関係やことばと社会との関係など広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。
- ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図る。
- 特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の活動の上で必要な、言語能力の本質としての思考力・判断力・表現力の養成を土台として、中学校までに習得した能力を更に伸ばさせながら、英語の基礎的な知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図る。
- 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、生徒の興味・関心を喚起する話題やテーマを提示すると共に、対話的な学びや深い学びを引き出す統合的かつ創造的な言語活動を目指す。
- 生徒の学習段階に応じて自律的な学習のための支援を提供し、主体的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力を養成する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
題材（テーマ）	①各課でとりあげた題材については、幅広く高校生の知的興味・関心を高めるものを選択し、「生きる力」を育成するに資するテーマを配置した。（第1号）	各Lesson 各Project
	②各題材においては、高校生の感性に訴えるテーマを扱った。（第1号）	各Lesson 各Project
	③個人の能力や創造性を伸ばし、個性を発揮する中で、それらを将来の生活や職業に結びつけることができるような題材の課を設けた。（第2号）	Lesson 1 Project 1
	④正義および自他の敬愛と協力など、社会への主体的な参画を扱った課を設けた。（第3号）	Lesson 4、8 Project 4、5
	⑤生命の尊重を扱った課を設けた。（第4号）	Lesson 2、4、8 Project 4
	⑥自然科学、環境を扱った課を設けた。（第4号）	Lesson 4、6 Project 5
	⑦日本の伝統文化および他国の文化を扱った課を設けた。（第5号）	Lesson 3、5、7 Project 2、3
言語活動	①本課の言語活動は、取り組む生徒の個性、創造性が発揮されるようにした。（第2号）	各Lesson のExpressing Yourself、 Output、Language in Action、 Option 各Project のYour Turn
	②本課の言語活動は、将来の職業の選択、環境問題、社会貢献、伝統と文化の尊重、平和の問題など、自分の考えをまとめて発信できるような題材を扱った。（第2号、第4号、第5号）	Lesson 1、3、4、5、7、8 Project 3
	③ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力して活動に取り組めるように配慮した。（第3号）	各Lesson のExpressing Yourself、 Output、Language in Action/ Project 4、5
付録	生徒の自律的な学習を支えるコーナーや付録などを配置した。（第2号）	目次／本書の効果的な使い方／ GET READY!／各Lesson の Vocabulary、Focus on Grammar、 Language Files、Reflection／各 Project／二次元コード（音声など） ／付録
登場人物	主な登場人物の配置及び活動においては、男女・出身地域の偏りがないように配慮した。（第3号、第5号）	各Lesson 各Project
構成	教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイント、などが生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮した。（第2号）	目次／本書の効果的な使い方／ GET READY!／各Lesson／各 Project／付録

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 国際理解教育の観点から、特に日本の文化については、理解するとともに発信していく態度を養えるように、話題やテーマ、活動の面で配慮した。
2. 自分の意見や考え、主張などを論理的に発信することができ、また国際理解の観点からも、他の国の人と積極的にコミュニケーションを交わすことができる態度が養えるように、話題やテーマ、活動の面で配慮した。
3. ことばへの関心などについても、多面的に考えることができるように扱った。
4. 人間としての豊かな心や人間のもっている微細な感情を意識し、そしてまた、幅広い観点からものごとを考えることができるような習慣形成に資する話題やテーマを配置した。
5. カラーユニバーサルデザインの見地から、識別しにくい配色を避け、形や記号・番号、説明文などの補助を設けた。
6. 環境にやさしい教科書づくりを心がけた。用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用した。インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-207	高等学校	外国語	論理・表現 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論 I 015-901	CROWN Logic and Expression I New Edition		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則に示された教育の方針や高等学校外国語科の教科目標および本書の教育理念に基づき、教科書の構成・配列や各領域などの系統・内容に関して、特に以下のことに意を用いた。

(1)基本方針

- ①多様化している生徒の実態を考慮し、質量ともに充実を図る。
- ②中学校までの体験や学習を踏まえて、中・高の接続が円滑に図られるように配慮する。
- ③3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に表現する能力が育成できるように、構成・内容を工夫する。
- ④教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒たちにわかりやすく提示され、主体的・協働的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力が育成されるように配慮する。
- ⑤基礎的な知識や技能を確実に習得し、それらの知識や技能を目的や場面、状況に応じて活用できる力を、繰り返し段階的に育成できるような教科書構成にする。
- ⑥英語を「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た情報などを元にして、様々な場面に応じて適切に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」ができるようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力が養えるような配慮をする。また、そうしたコミュニケーション活動や体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培える内容にする。
- ⑦学んだ内容の深化・発展に弾力的に取り組めるように、設問や活動などを工夫、充実させる。

(2)本書の特色と編集上の留意点

A. カリキュラムと分量

教材の精選をはかり、カリキュラムにゆとりをもたせた。

B. 題材内容

- 1) 「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」ためのテーマとして、ことばの教育、国際理解教育（異文化理解教育）、人間教育の観点の基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、興味を喚起する内容にした。
- 2) テーマは、人間としての生き方、食生活、日本文化、環境問題、文学・読書、科学・技術、都市・観光、ボランティアなど多様な内容にした。なお、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」ための形式は、会話、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、また発表のための原稿作成などを基本とした。
- 3) テーマの設定や登場人物は、英語が広く使われている現状と国際理解との関係から日本を中心に、主に英米を中心とした英語圏諸国の英語話者にし、特に高校生が実際に「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」という状況を重視して、より現実と遊離しない状況を設定した。

C. 言語材料の扱い

- 1) 言語材料は、活発で多様な言語活動を展開することができるように配慮した。
- 2) 「文構造」「文法事項」は表現活動に活用することを基本として精選し、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」上で必要と思われる基本的な事項であるとともに、より運用度が高いものを扱った。
- 3) 本書の導入部として GET READY! を設け、中学校における基本項目の確認とし、本課に負担なく移行ができるように配慮した。
- 4) 「語」は、英語コミュニケーション I 程度の範囲で、表現活動に必要なと思われる語彙・連語を精選して取り上げた。
- 5) 「音声」については、標準的な米音を基本とした。

D. 言語活動

言語活動は、「話す」「書く」必然性を重視し、「言語の使用場面」を具体的に提示すると共に、5領域の統合的な関連が図れるように、各Lesson の Understanding the Issue の対話文や Focus on Grammar の Language in Action、各Lesson のUSE と各Project のスピーチ、プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベートなど、形式を工夫した。また、「言語の働き」にも留意し、「話す」「書く」上で多用される表現についても、中学校までの学習を踏まえながら、基本的なものを精選し、系統的に扱った。

E. 本書の構成と内容

1. 構成

- 1) 全体構成は、Lesson 1～8、Project 1～5 を中心とした。内容は、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」技能を中心とし、その習得を目指しつつ、複数の領域を結びつけた統合的な言語活動が図れるように配慮した。
- 2) 各Lesson では、食事、日本文化、環境問題、読書、観光、ボランティアなど、生徒にとって関心のある日常的な話題や社会的な話題の中で自分のことに置き換えて、やり取りや発表をしたり、簡潔な文章を書いたりすることができるように工夫した。
- 3) 各Project では、スピーチ、プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベートの活動において、それぞれの活動の特徴を理解すると同時に、実際の場面を想定し、「Useful Expressions」などの表現を使って活動ができるように構成を工夫した。

2. 各Lesson の構成と内容

- 1) Understanding the Issue の対話文: 「話す」「書く」活動の元となる対話文。
- 2) Thinking with Data: この課の題材と関わる表やグラフから情報を読み取って表現する。
- 3) Expressing Yourself: 例を参考に、自分自身の意見や考えについてやり取りをする。
- 4) Input: モデル・スピーチ、プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベートの構成を確認し、リテリングを行う。
- 5) Output: Getting Ideas で自分自身の考えを書き出し、それを Organizing で英語にし、それを元に、Speaking/Presenting/Writing/Discussing/Debating で活動を行う。
- 6) Focus on Grammar: 対話文中に出てくる基本表現を例文と練習問題を通して確認する。
- 7) Language Files: Understanding the Issue に現れる基本表現を説明。
- 8) Option: 3つのお題の中から選択して、スピーチ、プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベートを試みる。
- 9) Reflection: その課を振り返って、①～③の項目が、どの程度できたかを3段階で自己評価する。

3. 各Project の構成と内容

- 1) 解説と英文: スピーチ、プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベートの解説と具体例。
- 2) Useful Expressions: スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートで使われる基本表現。
- 3) Your Turn: 自分自身の意見や考えを書いたり、話したりする。

4. 巻末に、「音声スクリプト・日本語訳・対話例」「語彙・表現リスト」「基本例文集」「英語の句読法」を設け、学習上の配慮とした。

2. 対照表

	図書の構成・内容 (●=Lessonなど ○=付録)	学習指導要領の内容
論理の構成や展開及び表現などに関する事項	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開ができるように、3領域（「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）の活動の達成にふさわしい言語材料や機能表現、語彙、文法項目を選定した。 各Lesson のLanguage Files に「やり取りの表現」「スピーチ [プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベート] に必要な表現」を設け、課題や目標に応じて、論理の構成や展開を意識しながら、情報などを効果的に伝える表現を提示した。 特に、語や文法事項の扱いについては、3領域の活動と効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように配慮した。 <p>●Project</p> <ul style="list-style-type: none"> 3領域の活動の基本的な特性を理解し、それぞれの活動への展開がスムーズにできるように構成を工夫した。 	(1)ア (ア)(イ)
情報を整理しながら考えたりすることに関する事項	<p>●Lesson、Project</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題について、多様なテーマに関心がもてるように、各Lesson、各Project それぞれのテーマを設定した。 各Lesson ではExpressing Yourself やOutputなどを、各Project ではYour Turn を設け、そこに示されたアイデアなどを参考にしながら自らの考えなどを書くことによって、場面や課題に即した中核の考えや展開を整理し、それを表現につなげることができるような構成とした。 具体的な課題に対して、英語を聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、情報や自分自身の考えなどを表現したり伝え合うことができるように、各Lesson、各Project の活動内容をバランスよく配置した。 また、各Lesson 内においては、最終の目標へ導くための支援として、GET のExpressing Yourself と Vocabulary、USE のTaking Notes & Retelling と Getting Ideas や Organizing などのプロセスを設け、情報や自分の考えなどを、要点や意図などを明確にしながら適切に表現できるように工夫した。 	(2) ア イ
「話すこと」「やり取り」	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題についての「やり取り」を通して、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、必要な情報を得たりする活動のための支援として、Taking Notes & Retelling、Getting Ideas などを設け、学習のための一助とした。 言語活動において活用頻度の高い慣用表現などをLanguage Files の「やり取りの表現」「ディスカッション [ディベート] に必要な表現」で系統的に示した。 活動の基礎となる文構造や文法事項については、Focus on Grammar を設け、実際の「やり取り」の活動と効果的に関連付けながら活用できるように配慮した。 <p>●Project</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ディスカッション [ディベート] の具体例」においては、それぞれの活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見などを適切な根拠と共に伝え合うなど、論理的なやり取りの展開が学習できるように構成を工夫した。 <p>○付録</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音声スクリプト・日本語訳・対話例」では本課に即した「やり取りの例」を示し、「語彙・表現リスト」では本Lesson の活動を、より豊かで活発なものにするために、多くの支援の一環として活動と関連する語彙のリストを付した。 	(3) ①ア (ア)(イ)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「発表」 「スピーチ」</p>	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題についてのスピーチやプレゼンテーションを通して、自分の考えや気持ち、意見や主張などを適切な理由や根拠と共に伝えるための支援として、Taking Notes & Retelling、Getting Ideasなどを設け、学習のための一助とした。 Presentingでは、スピーチなどの活動のあとに、聞き手との質疑応答などを扱うコーナーを設けた。 言語活動において活用頻度の高い機能表現や慣用表現を、Language Filesの「スピーチ [プレゼンテーション] に必要な表現」などで系統的に示した。 活動の基礎となる文構造や文法事項については、Focus on Grammarを設け、実際の「発表」の活動と効果的に関連付けながら活用できるように配慮した。 <p>●Project</p> <ul style="list-style-type: none"> Project 1、2においては、それぞれの活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合うなど、テーマに沿った論理的なスピーチやプレゼンテーションの展開が学習できるように構成を工夫した。 <p>○付録「語彙・表現リスト」</p> <ul style="list-style-type: none"> 本Lessonの「スピーチ」「プレゼンテーション」の活動を、より豊かで活発なものにするために、多くの支援の一環として、活動と関連付けた「語彙・表現リスト」を付した。 	<p>(3) ①イ (ア)(イ)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">書くこと</p>	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題についての「書く」活動を通して、自分の考えや気持ち、意見や主張などを適切な理由や根拠と共に段落を書いて伝えるための支援として、Taking Notes & Retelling、Getting Ideas、Organizingなどを設け、学習者のための一助とした。 言語活動において活用頻度の高い機能表現や慣用表現を、Language Filesの「ライティングに必要な表現」で系統的に示した。 活動の基礎となる文構造や文法事項については、Focus on Grammarを設け、実際の「書くこと」の活動と効果的に関連付けながら活用できるように配慮した。 <p>●Project</p> <ul style="list-style-type: none"> Project 3においては、「書く」活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に段落を書いて伝え合うなど、テーマに沿った論理的な「書く」活動の展開が学習できるように構成を工夫した。 特に、「書く」テーマに関する発想から推敲までのプロセスを重視し、発想のためのステップを踏むことによって学習者の理解のための支援とした。 <p>○付録「語彙・表現リスト」</p> <ul style="list-style-type: none"> 本Lessonの「書く」活動を、より豊かで活発なものにするために、多くの支援の一環として、活動と関連付けた「語彙・表現リスト」を付した。 	<p>(3) ①ウ (ア)(イ)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">言語の働きの 関する事項</p>	<p>●Lesson、Project</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動を行うにあたっては、「言語の使用場面」と「言語の働き」の中から、3領域の活動目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ、それぞれの活動の中で有機的に組み合わせ活用した。 「言語の使用場面」については、本書全体を通して、多様な場面を設定した。(例：家庭、学校、地域、国際社会、情報通信ネットワーク、本、食事、旅行 など) 「言語の働き」については、全Lessonを通して、1つ以上の表現を各活動の中で扱った。(例：話しかける、例をあげる、驚く、説明する、提案する、勧誘する、すすめる、話題を導入する、推量を示す、判断を示す、対比を表す、逆接を表す、言い換える、反論するなど) 	<p>(3)② ア(ア)(イ)(ウ) イ (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)</p>

※ 配当時間については、別紙カリキュラム表を参照。

カリキュラム表

L = Lesson, P = Project

課	タイトル	主な言語材料	題材/場面	はたらき	L	R	S や	S 発	W	配 時 数
GET READY!		基本5文型, 品詞、句と節							○	3
L1	Living Your Own Way	時制	人生・生き方/スピーチ	話しかける、例をあげる、自己紹介する、テーマを紹介する、締めくくる	○	○	○	○	○	6
L2	Breakfast: To Have or Not to Have	助動詞	食生活と健康/プレゼンテーション	驚く、出典・情報源を示す、話題を導入する、列挙・追加する	○	○	○	○	○	6
L3	Cool Japan	受動態	日本文化/ライティング	聞き手を引き付ける、詳しく説明する、分類する	○	○	○	○	○	6
L4	Saving Our Planet	不定詞	環境問題/ディスカッション	問題点を伝える、提案・勧誘する、意見を述べる、意見を求める	○	○	○	○	○	6
L5	Another Life I Might Have Had	動名詞・分詞	文学・読書/スピーチ	聞いて得た情報を伝える、相手に進める、問いかける、主張する	○	○	○	○	○	6
L6	Living in the Future	比較	テクノロジー・発明/プレゼンテーション	話題を導入する、推量・判断を示す、発表をまとめる、理由を述べる	○	○	○	○	○	6
L7	Discovering Japan and the World	関係詞	都市・観光/ライティング	対比・逆接を表す、感動を表す、詳しく説明する、結果を述べる	○	○	○	○	○	6
L8	Volunteer Work	仮定法	ボランティア/ディベート	意図を尋ねる、言い換える、反論する、反対する、要約する	○	○	○	○	○	6
P1	My Hobby		スピーチ	注意を引く、質問する、説明を求める、意見を述べる	○	○	○	○	○	3
P2	A Country I'd Like to Visit		プレゼンテーション	話題を導入する、例を挙げる、強調する、結論を述べる、要約する	○	○	○	○	○	3
P3	E-Book Readers		ライティング	列挙する、比較・対照する		○			○	3
P4	Are Zoos Necessary?		ディスカッション	発言を促す、意見を述べる、具体例を述べる、賛成する、反対する	○	○	○		○	3
P5	All Elementary School Students Should Have a Mobile Phone		ディベート	意見を述べる、理由を述べる、言い換える、否定する	○	○	○		○	3
付録：音声スクリプト・日本語訳・対話例、語彙・表現リスト、基本例文集、英語の句読法					配当時数合計				66	